

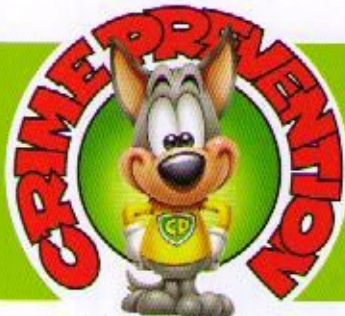
みんなで つくろう 安心の街



全国暴行センター
シンボルマーク
「パンチくん」



全国風俗環境浄化協会
シンボルマーク



©2008 BOHAN INC. ALL RIGHTS RESERVED.
防犯マスコット「CPくん」

月刊

安心な街に

全国防犯協会連合会・アドレス <http://www.bohan.or.jp/>
全国暴行センター・アドレス <http://www.la.biglobe.ne.jp/boutsui/>

8

2008

- 平成20年度 補助・助成事業の紹介
- 万引きに関する青少年の意識
NPO法人全国万引犯罪防止機構の調査結果



万引きに関する青少年の意識

～NPO法人全国万引犯罪防止機構の調査結果～

犯罪認知件数は、平成一四年をピークに徐々に減少し続け平成一九年においては二〇〇万件を切り、一九〇万件台となるなど順調に推移してきている。

しかしながら、これらの犯罪認知件数の中では、窃盗が群を抜いて多く一四二万九千件で全認知件数の七四・九%を占めている。

次に、この窃盗犯の状況を見ると、総数一四二万九千件のうち万引きが一四万二千件。窃盗犯の一割弱が万引きという状況である（左ページのグラフ参照）。

さて、この万引き犯罪の防止のため、特定非営利活動法人「全国万引犯罪防止機構」という組織が平成一七年六月に設立され、地道な調査を行

っている。

今年の六月九日に開催された同団体の通常総会の際、この団体が設立当時から、目玉事業として取り組んでいる「万引き犯罪に関する全国青少年意識調査」及び「全国小売業万引被害実態調査」の結果が報告されたが、それらの調査のうち万引き犯罪に関する全国青少年意識調査の結果について抜粋して紹介する。

1 意識調査の背景

このような意識調査を行うに至った背景として、「万引きはたかが万引きではない」という強いメッセージが込められている。非行少年中に占める万引き少年の割合は高く平成一九年中の刑法犯少年では二七%を占める。また、万

引きは「初発型非行」の一種として定義づけられ、多くの場合、凶悪、粗暴等の多様な犯罪の入り口となっている。

このような状況を踏まえ、万引きに対する少年の意識を調査することは、将来を担う少年達の健全育成を考える上で極めて重要な作業といえる。このような考えの元にこの調査は行われている。

2 調査の目的

この調査は全国レベルの調査であり、年代別、男女別、地域別等、分析の基礎データを得ることにより、防犯施策、青少年指導団体及び防犯ボランティア団体の活動に資することを目的に計画されたものである。

3 調査の内容及び回答

主な調査項目及び回答内容

は次の通りである。

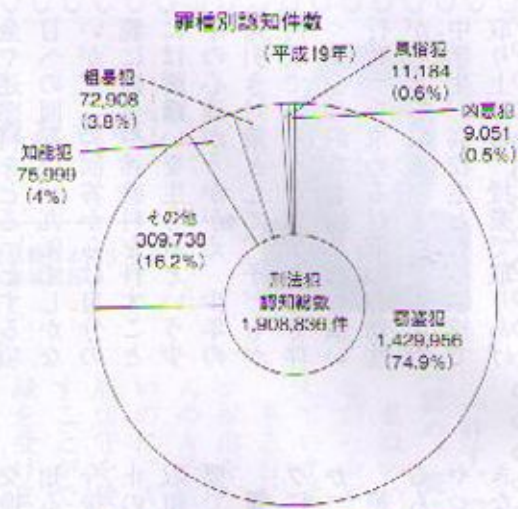
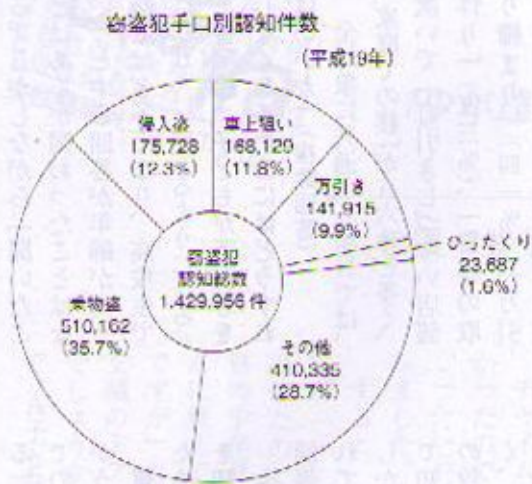
質問①「万引きについてどこで教えられたか」（注…万引きの行為態様、犯罪性等）

（複数回答）

調査によれば小学生の段階で既に九九・二%の児童が「万引きとはお金を払わずにお店の商品をもってゆくこと」であると理解している。万引きについて、(その態様や犯罪性を)どこで教えられたかという質問に対し、小学生の場合、テレビからが七二・一%で最も多く、次いで保護者からが五六・四%、学校が五〇・三%となっている。

質問②「万引きについてどのように考えているか」

万引きに関する考え方に、小学生、中学生、高校生（以下、「全対象」という）を通じ、絶対にやってはいけないとするものが八七・五%で最も多いが、「やってはいけないが大きな問題ではない」とする回答が、高校生で一三・六%を占めるなど万引き



(注)その他では、占有離脱物横領、器物損壊、住居侵入が大半を占める。

を許容する回答が年齢が高くなるに従って大きくなっている。また、「よくあることで問題ではない」とする回答も年齢が高くなるほど増えており、少年の間に「たかが万引き」という意識があることがうかがえる。

質問③ 「万引きについて友達どのように考えているか」

周囲にいる友人は万引きについてどう思っているかという質問であり、絶対にやってはいけないという回答が最も多いが、本人の場合よりその回答は「○ポイント程度低くなっており、周囲の友人の行う万引きは肯

定する傾向がうかがえる。この傾向は年齢が高くなるほど増えている。

質問④ 「万引きに誘われたことはあるか」

誘われたことはないとするものが九一%で最も多いが、その一方で年齢が高くなるほど誘われたものが多くなり、高校生では一三%の者が誘われた経験を持つようになる。

質問⑤ 「子ども達が万引きをするのは何故だと思うか」

(複数回答)

全対象に共通する項目では「品物が欲しい」が七六%で多く、次いで「お金がない」が六〇%となっている。各段階別に見ると小学生では、品物がほしい、お金がないが最も多く、物への欲求がストリートに万引きに結びついていることがうかがえる。さらに小学生では、仲間はずれにされるが三一・八%を占める。高校生では物がほしいというものが六八・二%と少なくなる。一方で「一度胸試し」(二九・

五%)や「簡単にできる」(二一・二%)という回答が多くなっていく。

質問⑥ 「万引きで捕まったらどうなると思うか」

(複数回答)

全対象に共通する項目では、全体として「警察に通報される」、「家庭に通報される」が、それぞれ八〇%近くある。一方、買い取れば済むとするのは二・七%である。捕まればそれなりの社会的対応のあることは少年達も認識していることがうかがわれる。中学・高校生では、「停学等」を上げるものが多い反面「学校に通報される」という回答が四七・五%と比較的低く、一学校に連絡はされないだろうが、されたら停学等になるかもしれない」と考えているものが多いことがうかがえる。

質問⑦ 「万引きしたものを友人などに売っているという話をどう思うか」(複数回答)

「聞いたことがない」とするものが最も多く八一%を占め

北の王国

「直江兼続」上・下

童門 冬二 著

「愛」の一字を兜に掲げ、戦場を疾駆した直江兼続。知略を尽くし、主君上杉景勝を捕佐し、秀吉、石田三成との邂逅、新発田攻め、京都での群雄との出会い、小田原攻め、伊達政宗との駆け引き……。乱世を生きたぬき、のちの上杉鷹山に引き継がれる領國経営のもとをつくった知謀と信念の男だった。

東北に独自の「王国」を築こうとした名将兼続の壮大な生涯を描いた傑作。
(「北の土門」改題)



学陽書房発行
上/395ページ・780円+税
下/379ページ・780円+税
文庫

る。しかしながら「聞いたこととはあるが関わったことはない」とする回答が年齢が高くなるほど多くなり、高校生では二五%に達するようになる。

質問⑧ 「子どもが万引きをしないようになるためにはどうすればいいか」(複数回答)

全対象に共通する項目では、「家庭での躾」が五六%と多く、次いで「万引きしづらい店舗作り」(五三%)、「警察の取り締まり」(四一%)、「万引きの刑罰強化」(三九%)となっている。逆に「親から罰金や迷惑料をとる」とする項目への回答は一九%でしかないが、この回答からは自分の親に罰金や迷惑料を科すことには躊躇いを生じるといふ少年の心理がうかがえ、少年の万引き対策として、子どもが何歳であろうと「子どもを伴って金銭的なものを含む償い行動」を求める対策の有効性が考えられる。また、小学生、中学生、高校生とも「学校で取り上げる、授業で取りあげ

る」という回答が多く、学校での万引き防止教育の重要性がうかがわれる。

質問⑨ 「万引きをさせないために店舗がやっていることを知っているか」(複数回答)

全対象を通じて、全員が店舗等で何らかの対策が講じられていることを知っている。しかしながら、これらの対策で知っているのは監視カメラの設置や防止ポスター等が多く、万引きを発見した際、警察や学校への通報、警察から学校への連絡等情報が相互に交換されているということを知っているものは少ない状況であり、今後の対策として、万引き防止の為に行われている各種の取組みを周知させる努力が必要である。

質問⑩ 「麻薬や脱法ドラッグについてどのように考えるか」(中高生対象・単数回答)

絶対やってはいけないとするものが九五・八%であるが、やってはいけないがさほど大きな問題ではないが二%、さ

ほど問題ではないが〇・八%存在する。ちなみに質問③、④で見た意識調査のところで、「やってはいけないがたいしたことではない」「よくあることで問題ではない」との回答をしたものと、この質問との関連を見ると、全体で九五・八%であったものが八六%に下がり規範意識が薄いとがうかがわれる。

以上、誌面の都合で調査の大まかなところを紹介するにとどまったが、この調査及び分析はさらに詳細なものであることを付言する。

最後にこの調査は万引きについて小学生、中学生、高校生がどう考えているかを調査したものであるが、防犯活動をする上でも少年の考え方をすることは大切なことであり、青少年の健全育成のためにこれらの調査活動を行っているも万引き防止機構を始め各防犯ボランティア団体と協力して活動を進めていくことが重要である。